

# 三水会会報

北里大学海洋生命科学部  
同窓会会報 第 62 号

平成23年9月発行

編集者 内藤 文隆

発行 三水会 (北里大学  
海洋生命科学部同窓会)

事務局 〒246-0031 神奈川県  
横浜市瀬谷区瀬谷5-22-1

TEL フリーダイヤル  
0120-873-135

目次・三陸港まつり(8月16日)	P. 1
緒方学部長寄稿文	P. 2
戸田大船渡市長寄稿文	P. 3
卒業生の東日本大震災体験	P. 4
朝日田先生教授就任挨拶	P. 5
平成23年度三水会定期総会報告	P. 6

職員紹介	P. 8
職員からのご挨拶・相模原キャンパス(写真)	P. 9
就職ガイダンス・義援金のお願い	P.10
野村先生の震災体験記・球技大会	P.11
掲示板	P.12

## 三陸港まつり(8月16日)



# 大震災と海洋生命科学部



北里大学海洋生命科学部 学部長

緒方 武比古

三水会の皆様方には日頃より暖かいご支援をいただいております、御礼申し上げます。特にも、東日本大震災に伴う避難、安全確保の過程では物心両面から学生・教職員を支えていただきましたこと、感謝に堪えません。

大震災はこれまでの想定を超えた津波を引き起こし、多くの人命と生活を奪ってゆきました。三陸キャンパスにおける第一波は3時20分ごろ、海全体が迫りくる様子に恐怖を覚えましたが、その時は東北太平洋沿岸全域での甚大な被害を想像できませんでした。地震発生後、学生、教職員、業者の方々は毎年実施している防災避難訓練

に従ってグラウンドに集合、体育館前に仮設対策本部を設置して被害状況の把握、安否確認ならびに避難生活に入りました。詳細は別稿に譲りますが、長編小説ができればかなほど様々なことがありました。最初の2日間は野宿状態、発電機等の支援物資が届いてからはいぶ楽になりましたが、寒さと余震に耐える厳しい日々でした。この間、学生諸君は水汲み、火起こし、食事の支度などにあたり、我々を支えてくれました。三陸スピリッツがこの危機的状況を乗り越える駆動力になったことは間違いありません。早期に学生諸君をバスで東京に送り届けることができたことは奇跡に思えます。これはひとえに大学本部、同窓会、地域自治体のご支援のお陰であり、心より感謝申し上げます。ご存知の通り、震災は学部にも大きな人的、物的、心的被害を与えました。極めて残念なことに、学生1名が未だ行方不明のままです。学生用アパートの3分の1ほどが全壊流出しました。老朽化が

心配されていたF1、2、3号館は一部損壊、安全を確保することは難しい状態です。さらに、海水揚水施設も使用不能となりました。三陸沿岸の復興には相当の年月を要することが予想されます。学部は教育研究、学生生活の場を失い、存続の危機に立たされたと言って過言ではありません。北里大学はこの状況に鑑み、当面5年間学部・研究科の拠点を相模原キャンパスに移すこと、およびこの間の教育研究を支える環境を整備することを決定しました。現在、来年9月の利用開始を目指した校舎建設の準備が進められています。これらの決定は入学時に学生諸君に対して適切な教育機会と環境を提供することを約束した大学の責務として当然のことと認識します。相模原への移動を開始した4月からは他学部校舎の一部などを間借りしながら、教育研究活動の再開に努めてきたところであります。この間、学内外から賜りましたご支援に心より感謝申し上げます。お陰さまで、連休明けからの授業再開にこぎつけ、現在は卒業・大学院研究も少しずつ始まっています。

学部は相模原キャンパスにおける教育研究の再建に専心しながらも、三陸キャンパスの今後や災害復興支援についても検討を重ねてきました。遅くなりましたが、これらの課題についても当面の方針を決定、公表しつつあります。概要は以下の通りです。

- ・三陸キャンパス施設の一部（飼育施設を含むF4、MB5、図書館）を臨海実験施設、および被災地復興に資する共同利用施設（資源、環境調査、種苗生産など）として活用する。
- ・学部・研究科の学術的蓄積を背景に、学部独自の学術的復興支援プログラム（①生物相・環境変化およびその回復過程の調査・研究、②増養殖業復興に向けた基礎的研究、③調査研究成果の情報発信）を構築・展開する。
- ・三陸研修所を上記活動に資する宿泊施設として当面活用する。

学部は今、被災から立ち上がり、再び歩み始めたところであり、学部が培ってきた理念、目標を堅持して優秀な人材の育成、研究成果による社会貢献を果たすべく、当面の環境の中でも前進を続ける所存です。三水会の皆様にはこれまでにも増して厚いご支援をいただければ有り難く、よろしくお願い申し上げます。

# 「北里大学三陸キャンパスの 一日も早い再開を目指して」

大船渡市長 戸田 公明



はじめまして、大船渡市長の戸田でございます。三水会の皆様におかれましては、この度の東日本

大震災に際し、義援金や数々の物資、ボランティア活動など、物心両面にわたる多大なご支援をいただいておりますことに対し、市民を代表し心からお礼申し上げますとともに、絶望の淵に立った市民に、生きる力と、再び立ち上がる勇気を与えていただきました皆様の心温まるご厚情に、深く感謝申し上げます。

あの日から半年が経過し、水道や電気、通信網等のライフラインも復旧する中、仮設住宅への入居が完了し、がれきの撤去も順調に進んでおります。被災した市内事業所や店舗の中には、修繕を終

え、または仮設建物で業務・販売を行う動きもみられ、徐々に復旧から復興へと歩み始めています。

さて、ご案内のとおり、北里大学海洋生命科学部は、海洋・水産分野における研究・教育の場として、国内でも数少ない雄大な自然を残したロケーションにあり、前身の水産学部を含め、約40年の長きにわたり、水産業の振興に多大な貢献を果たしてこられました。

この間、本市では、産学官連携の推進、生活環境の整備などに取組みとともに、全国各地から集まっている学生の皆さんには、単に、友人や教員との交流を通じて、自己陶冶と人格形成に努め、学窓を巣立っていくという学内での交流にとどまらず、海に、山に、豊かな資源に恵まれた三陸の地の利を生かし、地域住民とのさまざまな交流を通じて、当地で学ぶことの意義深さを認識しつつ、他の大学では得られない充実感や満足感を生涯の財産として持ち続けていた、だきたいとの一心で、これまで、各方面において大学との

連携・交流に努めてきました。

平成20年6月には、学校法人北里研究所との間で、教育・文化をはじめ、スポーツ、まちづくり、産業振興、環境保全等、広範な分野において連携・交流を推進する協定を取り交わしております。

こうした折に、東日本大震災が発生し、数日後、校舎の一部に損壊が生じて改修が必要であること、多くの学生アパートが被災したことなどから、大学側で、緊急措置として平成23年度から27年度までの5年間、海洋生命科学部の授業を相模原キャンパスで行う決断をしたとの知らせを受けました。3月末、震災対応で混乱する中、岩手県や市議会、漁協、越喜来地区住民の代表などとともに上京し、学校法人北里研究所の柴理事長に対し三陸キャンパスの早期再開について強く要望するとともに、その後も、折に触れて大学本部を訪問しながら、今後における三陸キャンパスの活用や早期再開について働きかけてきました。

こうした本市の取り組みを受け、去る8月1日、副学長様、海洋生命科学部長様などが市役所に来られ、当分の間、三陸キャンパスは、①資源・環境調査、種苗生産などの一部共同利用施設として運用すること、②臨海実験施設と

して活用すること、さらに、③宿泊施設として三陸研修所を活用することなどの方針が示されました。

現在、本市では、大震災からの早期復興と市民が生き生きと暮らすことができる新たな大船渡市を創るため、復興計画の策定に鋭意取り組んでおります。三陸キャンパスの早期再開は、まさに当市復興の象徴となるものであり、市民とともに強い期待を寄せられるものであります。

復興への道のりは遠く険しいものと存じておりますが、本市は、過去に、幾多の大津波により甚大な被害を受けながらも、不撓不屈の精神で、危機を乗り越えてきました。

今回の大震災による被害は、想像を絶する甚大なものでありますが、三水会の皆様をはじめ、国内外からのご支援を励みに、一日も早い復興に向け、市民一丸となつて取り組んでいくとともに、三陸キャンパスの早期再開に向け、引き続き、全力を傾注して参りますので、変わらぬご支援をよろしくお願い申し上げます。

結びに、北里大学並びに三水会様のさらなるご発展と皆様の今後ますますのご健勝、ご活躍を心から祈念いたします。

# 震災、大津波が釜石を襲ったあの日・・・

双日食料水産株式会社大槌工場勤務 8期 新妻 裕子



2011

年3月11日

14時46分、

そのとき

私は釜石の

隣町「大槌

町」の職場

にいました。「あつ、地震」と思った瞬間、これまでにない地響きと不気味な揺れを感じ、大きい！と思った瞬間、事務所の電気が「パチッ」と音をたてて切れ、机のものが崩れ始めました。長い揺れが続き、これはただ事ではないと思いつつ、加工場に働く従業員全員と共に建物の外に避難したとき、「只今、三陸沿岸に大津波警報が発令されました。全員高台へ避難してください。」と町内の防災無線、「全員避難！」の号令とともに、工場裏の高台へ・・・

私の職場（工場）は、ひよっこりひよったん島のモデルともいわれる蓬萊島が目の前に見える埋め立て地の岸壁にありました。鮭を原料とした食品加工を行っている工場、大槌の誘致企業として平成元年7月にスタート。その後、

社名は「日鉄ライフ」↓「新日鉄都市開発」↓「双日食料水産」と変わりましたが、勤務場所は変わらず、美しい海を見ながら仕事ができる毎日でした。工場では「鮭フレーク」「スモークサーモン」「押し寿司用の成型品」を主に製造しており、私は品質管理という部署に所属して、製品ができるまでの工程や製品検査および記録管理また、衛生にかかわる指示・管理や取引先様の品質管理担当とのやりとりと、毎日を忙しく過ごしていました。この日も来客があり、打ち合わせを終えて事務所までパソコンに向かっていました・・・

高台へ避難してまもなく海の様子子が変わり、ついさつきまで居た工場を津波が破壊し、その波が私たちのいる高台まで迫ってきました。危険を感じてさらに上へ山の林道へと駆け上がりました。停電、携帯も圏外・・・何の情報も得られないままライフラインが切断されたその場で2晩過ごし、3日目の朝「よし、帰ろう！」と意を決して獣道を黙々と歩き続け・・・、視界が広がった途端、あま

りの惨状に言葉も涙もありませんでした。これは現実か???それでも私が行動を起こした3日目にはすでに自衛隊の方々が瓦礫を除き歩けるだけの道を作り、信号機がすべて倒れて不能になった交差点を他県の警察の方々が交通整理してくれていました。地元の人たちもあの日から寝ずに一生懸命動いていました「考えつと泣けてくつから、考えねべし、とにかく動くべし」と言つて。

震災発生と同時に音信不通になった私を心配して同期の友達が無事確認に手を尽くしてくれたり何度も何度もメール・電話をしてくれたり、また会いに来てくれて、懐かしいその声や笑顔にホッとするとともにとても勇気づけられました。しかし、その友達と楽しく3年間を過ごした越喜来の地も震災にあり、犠牲になられた方もおられたと聞きました。ほんとに痛ましいことです。大学は相模原で授業を継続すること、三陸も釜石も少しずつ前に進もうとしています。瓦礫も少しずつ片付き始め、徐々に人が動き、私の会社の工場も以前のように多品種製造ではありませんが「鮭フレーク」の工場として、ここ釜石の地で再建へ向けて前進しております。

幸いにも私の家族は無事でした

が、家も家族も仕事も無くしてしまつた多くの人たちがいます。この先はたして元通りの生活ができるか?それは難しいと思います。しかし、それぞれの立場でそれぞれができることを行動に移す、それが今やるべきことだと思いません。今も他県の方々がいろいろな形で支援してくれています。その光景を見ると不思議なことにあの時出なかつた涙がこみ上げてくるのです。自分たちも何かしなければ。そんな思いを後押ししてくれるのかのように、雨上りの空にきれいな虹がかかりました。それぞれの思いを胸にみんなが見上げていた、震災から2ヶ月ほど経つた日の夕方でした。



釜石観音と虹

# 震災さなかの教授拝命

水圏生態学研究室 9期 朝日田 卓

のび放題のヒゲが顔を覆っている。首から下は濃紺のブレザーでキメテはいるが、顔だけ見ると「一体どこから現れたのか?」といった風貌に見えたことであろう。東日本大震災から21日目の平成23年4月1日、私はそんな姿で教授の辞令を学長から拝受したのであった。

3月11日午後2時46分、「早く仕事を片付けて陸前高田の博物館に向かわなければ・・・。」そう思いながら大学院生と話していた時、地鳴りと共に大きな揺れが我々を襲った。「こいつは大きい」院生や学生に声をかけて廊下の踊り場に避難させ、研究機器の様子を見ようと大揺れの中を研究室に戻ったとたん、さらに大きな揺れに襲われ一歩も動くことができなかった。

これまでも震度6の地震は3度ほど経験しているが、これほど強く、また長い地震は初めてであった。研究室では顕微鏡や実験器具が床に落ち、地震の大きさを示していたが、本棚や薬品棚等は転倒防止器具のおかげで倒れることは

無かった。学部では数年前から本格的に災害対策を行っており、それが功を奏した形となった。しかし、研究室があるF1号館4階は、コンクリートが落ち鉄筋がむき出しになるなど、大きな被害を受けた。

学生の無事を確認後、訓練通りに体育館へ避難し、仮設救護所の設置や点呼等が終わった頃、ゴーツという飛行機の爆音のような音が響いた。巨大津波の音であった。

「これだけの地震だから津波は必ず来る。もし、防波堤を超えたら大変なことになるな」音が聞こえたのは、そんなことを話していた矢先のことであった。体育館のある場所からはるか下に見える海が、断崖に沿って上下動を繰り返しているのが見えた。

地震と同時に停電になったためか、大学のある場所には防災無線の音は一切聞こえなかった。災害時に学生全員が送信することになっていない安否確認メールも機能しなかった。幸い、学部には1台備えてあった衛星電話が、本部との

連絡や学生の安否確認などにフル回転し、孤立を免れることができた。

三水会の理事でもある内藤先生の支援トラックを皮切りに、学生を避難させる支援バスが東京から次々に到着し、1週間にわたる学生との避難生活は終わった。同時に地域支援や、各種片付け、新年度の教育研究体制の構築など、新たな課題が次々と目の前に現れたが、事の顛末については報告を他に譲ろう。

話をもとに戻そう。この頃私のヒゲはのび放題で、風呂にも入っていないので、相当異様な風貌であったと思う。幸い高台にあった我が家は1週間ほどで電気が復旧したので、教職員の共同風呂を開設した。ヒゲを剃ることもできるようになったが、私はあえて剃らなかつた。3月11日に、博物館で共に仕事をはずであった教員の子の卒業生2名の安否が、まだ不明であったからである。一人は遺体が見つかったとの情報があったが、自分で確認するまでは信じたくないという気持ちが高く、無事であることの願いを込めてヒゲモジャの風貌のままだった。

結局願いはかなわず、ヒゲモジャのまま冒頭の辞令交付式に臨んだ翌日、天国へ行ってしまった

彼に会いに、ご両親宅に伺った。残念ながら、もう一人も5月に遺体で見つかった。震災当日は大学で博物館関係の仕事を一緒にやる予定であったが、彼らに急な仕事ができなかったため、予定を変更して私が博物館に行くことになった。あと30分、地震の発生が遅ければ、私もこの世にはいなかったと思う。

今回の震災で学んだことは多い。「防災に備えすぎはないこと」「的確かつ迅速な判断と行動」「信頼と協力」「組織の統率」・・・しかし何よりも問われたことは「人間性」であった。「真摯に事にあたり、真摯に人に対応する」当たり前のことであるが、このことが最も重要であった。私はこれからもこの経験を胸に、教育・研究に真摯に向き合っていくつもりである。ヒゲはこれからも時々伸びるであろう。志半ばで亡くなった彼らの思いを忘れないために。



「平成23年度  
三水会定期総会報告」

平成23年5月21日（土）午後6時より北里大学白金キャンパス薬学部一号館1507教室において、平成23年度三水会定期総会が開催されました。

代議員総数52名に対し、出席数50名（本人出席36名、委任状提出者14名）欠席2名となりました。

冒頭、議長選出は、水産食品学科6期：河村尚之氏 続いて議事録署名人には水産増殖学科2期：水鳥純雄氏 同じく24期：高原陽子氏を選出しました。

その後議事に入り執行部より、平成22年度事業報告及び収支決算報告が行われ、続いて監査報告が行われました。そして報告通り承認されました。

引き続き平成23年度事業計画及び予算案の説明があり、原案通り承認されました。

又、その他の議案について、「地区親睦会助成金交付要綱」の実施、適用について、提出資料に基づき執行部より説明があり、原案通り承認されました。

そして、今年3月11日に発生した東北地方太平洋沖地震災害に対し、三水会で行っている義援募金の支援策について、委員より活発

な意見が寄せられ今後の理事会等で協議して行くこととしました。

『平成22年度事業報告』

1. 会報の発行

同窓生の動向、学部状況、各種の情報などを内容とした会報を平成22年9月と平成23年2月の二回発行した。

2. 三水会ホームページの運営管理

会員に対し本会の情報を迅速、かつ充実した内容を提供した。

3. 会員の現状の把握

全学同窓会と連携し、名簿情報の正確性の向上に努めた。

4. 親睦会の開催

各地区より申請がなかったため、今年度は開催しなかった。

5. 同期会等の助成

同期会、講座別OB会及び地方親睦会等卒業生の集会の費用の一部を助成した。

6. 大学・学生との懇談会の開催

海洋生命学部在学生との懇談会を平成22年10月20日に三陸校舎にて開催し、意見交換を行った。また今年度、大学との懇談会は開催

7. 課外活動助成

しなかった。大学祭及び体育祭費用の一部を助成した。

8. 就職ガイダンスの開催

各分野の卒業生による就職ガイダンスを平成22年11月4日に海洋生命学部生を対象に三陸キャンパスにて行った。

9. 漁船海難遺児育英会寄付

漁船海難等により親を亡くした子弟に学費の援助を行っている漁船海難遺児育

10. 英会に対し、寄付を行った。三水会創設30周年記念事業の開催

三水会創設30周年に伴い、各研究室の系譜を作成し配布した。

また、東京都葛西臨海公園（ホテルシーサイド江戸川）において開催予定の記念講演会及び親睦会は震災の為、中止した。

11. 東日本大震災に係る義援金活動の実施  
平成23年3月11日に発生

平成22年度収支決算書  
平成23年3月31日現在

支出の部		収入の部			
科 目	予算額	決算額	科 目	予算額	決算額
1. 事業費	4,200,000	3,005,369	1. 部会助成金	4,230,000	4,230,000
(1) 会報の発行費	2,000,000	1,857,135	2. 会報郵送料補助	591,000	591,000
(2) 三水会HPの運営費	200,000	181,324	3. 前年度繰越金	2,409,647	2,409,647
(3) 親睦会の開催費	200,000	0	4. 預金利息	3,000	859
(4) 同期会等助成費	200,000	86,000	5. 雑収入	10,000	10,000
(5) 大学・学生との懇談会費	100,000	13,000			
(6) 課外活動助成金	200,000	200,000			
(7) 就職ガイダンスの開催費	250,000	172,000			
(8) 漁船海難遺児育英会寄付	50,000	50,000			
(9) 三水会創設30周年事業費	1,000,000	445,910			
2. 運営・管理費	2,370,000	1,829,474			
(1) 印刷・通信費	420,000	243,025			
(2) 会議費	700,000	571,547			
(3) 総会費	250,000	180,120			
(4) 事務局費	950,000	827,695			
(5) 慶弔費	50,000	7,087			
3. 予備費	673,647				
4. 次年度繰越金		2,406,663			
合 計	7,243,647	7,241,506	合 計	7,243,647	7,241,506

平成23年度予算

支出の部		収入の部	
科目	予算額	科目	予算額
1. 事業費	3,250,000	1. 部会助成金	4,215,000
(1) 会報の発行費	2,050,000	2. 会報郵送料補助	608,000
(2) 三水会HPの運営	200,000	3. 前年度繰越金	2,406,663
(3) 親睦会の開催	200,000	4. 預金利息	3,000
(4) 同期会等助成費	200,000	5. 雑収入	10,000
(5) 大学・学生との懇談会費	100,000		
(6) 課外活動助成金	200,000		
(7) 就職ガイダンスの開催費	250,000		
(8) 漁船海難遺児育英会寄付	50,000		
2. 運営・管理費	2,370,000		
(1) 印刷・通信費	420,000		
(2) 会議費	700,000		
(3) 総会費	250,000		
(4) 事務局費	950,000		
(5) 慶弔費	50,000		
3. 予備費	1,622,663		
合計	7,242,663	合計	7,242,663

『平成23年度事業計画』

1. 会報の発行  
同窓生の動向、学部の状態、各種の情報などを内容とした会報を平成23年9月
2. 三水会ホームページの運営管理  
会員に対し本会の情報を迅速、かつ充実した内容を提供する。
3. 会員の現状の把握  
全学同窓会と連携し、名簿情報の正確性の向上に努める。
4. 親睦会の開催  
各地区の会員を対象とした親睦会を開催する。
5. 同期会等の助成  
同期会、講座別OB会及び地方親睦会等卒業生の集会の費用の一部を助成する。
6. 大学・学生との懇談会の開催  
大学、海洋生命科学部在学生との懇談会を開催し意見交換を行う。
7. 課外活動助成  
クラブの活動経費、大学祭及び体育祭費用の一部を助成する。
8. 就職ガイダンスの開催  
各分野の卒業生による就職ガイダンスを海洋生命科学部在学生を対象に行う。
9. 漁船海難遺児育英会寄付  
漁船海難等により親を亡くした子弟に学費の援助を行っている漁船海難遺児育英会に対し、寄付を行う。
10. 東日本大震災に係る支援活動や義援金活動の実施  
平成23年3月11日に発生した東日本大震災で大船渡市の三陸町にも甚大なる被害が発生したことに伴い、被災された三陸町の方々を支援するため、引き続き義援金活動を行う。



緒方学部部长をお招きした平成23年度三水会定期総会

11. 課外活動助成  
クラブの活動経費、大学祭及び体育祭費用の一部を助成する。
12. 就職ガイダンスの開催  
各分野の卒業生による就職ガイダンスを海洋生命科学部在学生を対象に行う。
13. 漁船海難遺児育英会寄付  
漁船海難等により親を亡くした子弟に学費の援助を行っている漁船海難遺児育英会に対し、寄付を行う。
14. 東日本大震災に係る支援活動や義援金活動の実施  
平成23年3月11日に発生した東日本大震災で大船渡市の三陸町にも甚大なる被害が発生したことに伴い、被災された三陸町の方々を支援するため、引き続き義援金活動を行う。
15. また、義援金の寄付先の選定については、三陸町の復興に資するところについて協議の上で選定することとする。

# 職員紹介

平成23年3月31日現在



## ●総務課職員

(前列右から)  
前田昌彦事務長 (相模原勤務)  
下佐和博課長 (相模原勤務)  
鈴木雄介職員 (相模原勤務)

(後列右から)  
新田美裕職員 (5月退職)  
佐藤美子職員 (来年3月まで休職後退職)  
今野とも子職員 (相模原勤務)  
及川よつ子職員 (3月退職)  
古水力職員 (9月まで三陸勤務後退職)

及川よつ子職員のメッセージはP.9



## ●学生課職員 (右から)

佐藤美津子職員のメッセージはP.9

古水ゆみ子職員 (相模原勤務)  
佐藤美津子職員 (5月退職)  
新沼真弓カウンセラー (5月退職)  
花崎さち子看護師 (5月退職)  
山崎比佐子職員 (来年3月まで休職後退職)



## ●教務課職員 (右から)

及川善裕課長 (相模原勤務)  
村上まき職員 (5月退職)  
広野彰主任 (相模原勤務)  
今野洋子職員 (来年3月まで休職後退職)  
加藤由幸職員 (5月退職)  
遠藤隆雄係長 (4月退職)



## ●三陸研修所職員 (右から)

門田波津子職員 (三陸勤務)  
平田恵子職員 (2月退職)



刈谷勝子職員のメッセージはP.9

## ●図書館職員 (右から)

刈谷勝子職員 (来年3月まで三陸勤務後退職)  
菊地晴美職員 (相模原勤務)  
伊藤あゆ職員 (5月退職)



## ●協立管理工業(株)職員の皆さん

(前列右から) (後列右から)  
永沢章子さん (4月退職) 富沢ひろ子さん (4月退職)  
鈴木愛子チーフ (4月退職) 橋本永子さん (4月退職)  
照井律子さん (4月退職) 富沢久子さん (4月退職)  
中嶋よね子さん (4月退職)



## ●学食・売店 (三陸ふるさと振興(株)) 職員の皆さん

(前列右から) (後列右から)  
佐々木円さん (4月退職) 岡沢範子さん (道の駅三陸勤務)  
渡邊聡子さん (4月退職) 中嶋りつ子さん (4月退職)  
新沼芳子さん (4月退職)  
瀬谷貴志チーフ (道の駅三陸勤務)

## 三水会の皆様へ

佐藤 美津子

このたびの東日本大震災では大変ご心配をおかけいたしました。大学には連日のように三水会員の皆様から沢山の支援物資が届き、三陸への思いを強く感じ、とても励まされました。また、がれき撤去や崎浜漁港の清掃作業など休暇を利用したボランティア活動に何度も足を運んでくださる方もおられます。多大なるご支援にはただただ感謝の気持ちでいっぱいです。心より感謝申し上げます。

学部は学生の安全のため相模原キャンパスに移転（5年間）しましたが、皆様にはより一層のご支援をお願い申し上げます。

さて、私事ですが、今年5月31日付で退職いたしました。在職中は大変お世話になりました。ありがとうございます。皆様と過ごした三陸キャンパスの思い出が走馬灯のように蘇ります。「ふるさと三陸」は負けません。いつの日か復興したふるさとへお出でください。お待ちしております。

最後になりますが、三水会の皆様のさらなるご活躍をお祈り申し上げます。

## あれから40年

刈谷 勝子

北里大学に出会って40年。開学した昭和47年に入職し、3月の東日本大震災により、定年まで残すところ三年を切り、相模原に異動せず5月31日をもって退職の道を選びました。入職した一年目は学生を迎えるための準備や構内整備。入学生が第一期生なら私は入職一期生、同い年の学生達が二年目に三陸にやって来た。一期生はとても印象深く思い出に残る人たちが多い。今年同じく退職を迎えた及川よつ子さん（旧姓・柳本）、佐藤美津子さん（旧姓・及川）と私を含めた三人は前にも述べたように開学当初から勤務しており、私たちが辞めた今、当時の水産学部を知るものが誰もいなくなりました。あれから40年、学生・事務職第一期生は立派な中高年のおじさん・おばさんになり各方面で活躍している。

私は、図書資料移動のお手伝いのため今年度末まで臨時職員として三陸キャンパスに勤務しております。キャンパス内で見かけましたら声をかけて下さい。最後に三水会の皆様からは心温まる多くの励ましやご支援、情報が得られない

いとわざわざ三陸まで足を運んでくれた方、お忙しい中ボランティアに駆けつけてくれた方々と数えきれない程でした。母校に、そして三陸に寄せていただいた数多くの想いを有難うございました。

## 退職にあたり

及川 よつ子

このたびは、計らずも三水会の貴重な紙面をお借りし、退職にあたっての御礼の機会を与えていただきまして誠にありがとうございます。

私は、本年3月末日をもちまして退職いたしました。39年間もの長きにわたり勤務させていただきましたのもひとえに公私にわたってご指導賜りました皆様のおかげと深く感謝いたしております。

また、このたびの大震災による被災に際しましては、皆様からの温かい励ましに感謝の言葉もございません。

かつて、陸の孤島と言われたこの三陸の地を学舎とし、志を立てられ、ここ三陸から全国へと羽ばたかれた皆様は、私達地元の人にとりまして誇りであり、その恩恵のほどは計り知れませんが、この困難を乗り切ろうとしている三

陸にその折々にでも思いを寄せていただければ幸いに存じます。末筆ながら皆様のご多幸と三水会の益々のご発展を心よりお祈り申し上げます。



ミズ水族館（相模原キャンパス内）



クレセント棟（相模原キャンパス内）

## 就職ガイダンス

（株）水産経済新聞社  
黒岩 裕樹（A F 23期）



7月14日に相模原キャンパスで就職ガイダンスが開催され、日本水産（株）の白井和紀さん（A

F 18期）、（株）CTIアウラの伊賀雄一さん（A F 18期）と私の3人が、お話をさせていただきました。

対象となる3年生は、新就職氷河期世代と呼ばれるのだそうです。ならば「なんとなく」で職に就くことは難しいでしょう。まして、「有名企業・高給職だから」の志望理由がどこまで通用するか、疑問です。より高い理想に到達する手段のひとつとして、意図的に大学に残る「就職留年」の話を聞きますが、ちよつと待つてください。

小学校から大学3年までの間、われわれは勉強の仕方を十分に教わりました。教科書から学ぶだけでなく、対象となる文献の検索、先人に教えを請う姿勢、自身に分かりやすいまとめかたなど、幾度と無く繰り返ししてきたはず。卒業論文を書く4年生は、自発的に学習する初めての機会です。ひとつ

を解決するとまた新しい疑問が出ることを、私はこの時期に学びました。社会人の仕事も同様です。

だからこそ、在学中よりも社会人になつてからの方が、はるかに勉強ができます。「就職できないから」と学校に残るくらいならば、形はどうあれ社会に出たほうが、自分への経験値は飛躍的に向上するのではないのでしょうか。

就職活動の方法は人それぞれですが、講演をした3人も、まず「自分が何をしたいか」を明確にすることが肝心と、意見を揃えました。ゴールを先に決めてしまえば、必然的にプロセスが生まれるし、情熱も加味されます。狙いを絞るほど、見合う企業が案外少ないと気が付くかもしれません。だからこそ、全力で挑む気力が沸いてくるもの。

終身雇用の神話が崩れた現代です。考えるだけで終わりにせず、行動に移せるのは、水産学部時代から続く我が学部の特長であり、今の社会でもっとも必要とされるひとつです。



## 「東北地方太平洋沖地震義援募金のお願い」

去る、平成23年3月11日14時46分、東北地方で発生した地震その後の津波により、水産学部および海洋生命科学部卒業生、第二の故郷である大船渡市三陸町も甚大な被害に見まわれました。

被災された学生、教職員そして地元住民の皆様方には、心よりお見舞い申し上げます。

そこで三水会は数多くの卒業生より「何か少しでも力になりたい！」との声に、被災した方々のご支援が出来ればと考え、下記の通り義援金受付窓口を開設しました。

ご寄付いただきました義援金は学生、卒業生、教職員が大変お世話になりました、地元三陸町の皆様の復興支援資金として贈呈させていただきます。

尚、義援募金活動、復興支援活動につきましては、同窓会報、三水会ホームページ等にてご報告するとともに、今後も息の長い三陸復興支援活動を行ってまいりますので、ご協力のほど宜しくお願い申し上げます。

平成23年9月

義援金窓口；郵便局・ゆうちょ銀行

口座記号番号；00510-6-100763

口座加入者名；三水会援助の会

取扱期間；平成23年3月19日（土）～未定

「東北地方太平洋沖地震義援募金による三陸復興支援について」

{支援実績報告} 1、平成23年6月17日 三陸町越喜来漁協に300万円寄付

2、平成23年7月15日 三陸港まつり実行委員会に300万円寄付

## 「東日本大震災」に遭遇して

北里大学名誉教授 野村 節三

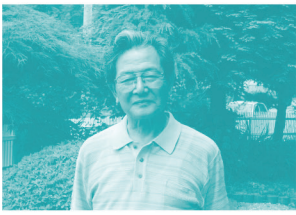
3月11日、東北地方に甚大な被害をもたらした未曾有の「東日本大震災」が起きました。

今回の大津波で大船渡市をはじめ三陸沿岸の港湾や街並みは見る影もなく壊滅し、瓦礫の山と化しましたが、私達は住居共に大津波から難を免れたことは誠に幸運でした。

しかし、身内や住居を失った多くの被災者の心情を察し、その惨状と被災後の困窮生活は私の脳裏から生涯消えることはありません。

震災後は全国的な復興・支援活動のお蔭で、当地方もほぼ元の生活に戻りつつあります。

一方、海洋生命科学部では学生アパートの被災でやむなく全員が相模原へ移転しましたが、大船渡市民は五年以内に当地への復帰を切望しています。私も当地の復興委員として一日も早い復興に向けて微力を傾けています。



結びに、三水会からの多大なご支援に感謝し併せて会員諸氏のご健勝をお祈り致します。

## 海洋生命科学部 球技大会のご報告

体育会副委員長・球技大会実行委員長 浅川 崇典

平成23年7月16日、17日に相模原キャンパスで開催された海洋生命科学部球技大会についてご報告させていただきます。

今年3月11日に起きた東日本大震災の影響で三陸キャンパスで開催する事が出来ませんでした。なんと7月に相模原キャンパスで開催することが出来ました。また今年度は相模原キャンパスでの初めて開催ということもあり、執行委員会のメンバーにも協力をさせていただきました。球技大会1日目、2日目ともに好天に恵まれ、無事に全競技を開催することができました。

競技種目は、例年のソフトボール・ドッチボール・3on3・フットサルに加え、バレーボールの5種目、さらにミニゲームのバランスゲーム、靴飛ばし等を行いました。ワンプレーごとに盛り上がり、また悔しがる声も起きましたが、みなさん楽しそうに元氣浼刺にプレーしていました。また、どの競技も予定通りに進み、トラブルもなく、特別な負傷者も出ず全競技を無事に終了させることができました。



今回、相模原キャンパスでは初めての試みである海洋生命科学部の球技大会が、無事成功し、終了出来たのは優秀で行動力のある人材が集まった執行委員会、体育会（体育祭実行委員）、アドバイスやお手伝いをして下さった昨年度体育会の先輩たち、急な仕事でも快く協力していただいた各部活主将さん、様々な要求にも親身になって対応して下さいました海洋生命科学部の学生課の皆様、球技大会に積極的に参加し、そして今大会を大いに盛り上げて下さった参加者の皆様、当日お忙しく、暑い中応援に来て下さった皆様のおかげです。心から感謝申し上げます。この度は誠にありがとうございました。

## 課外活動報告「北里会再編」

北里会執行委員会 委員長

海洋生命科学部3年

宇佐美 貴大

3月の東日本大震災により、5月から相模原キャンパスに移ることになりました。そして、6月に、例年三陸キャンパスで行っていた新入生対象のオリエンテーションを、相模原キャンパスで新入生交流会として開きました。オリエンテーションでは、一部で、執行委員会、漁火祭実行委員会、体育会、文化会、研究室の紹介。二部で、食堂で立食パーティーを開いて交流を深めました。7月には、海洋生命科学部独自の球技大会も行いました。たくさんの方が参加し、とても盛り上がりました。そして、これからは各学部の学祭にも参加をして、海洋生命科学部を活発にしていく予定です。



1990年当時の漁火祭大漁踊り

## ■ 第12期三水会代議員改選のお知らせ

平成21年度の改選から3年近く経ち、平成24年5月開催の定期総会にて役員、代議員の改選が行われます。つきましては代議員の推薦（自薦、他薦）を、下記により受付します。（役員、代議員任期は平成24年総会～平成27年総会まで）

記

<自薦の場合>

① 会員氏名 ② 卒業年 ③ 卒業学科講座 ④ 現住所 ⑤ 電話番号 ⑥ E-mail を記載。

<他薦の場合>

推薦者名を記入の上、②～⑥を記載。

FAXまたはE-mailにて、三水会事務局までお送りください。

代議員資格：三水会正会員（水産学部卒業生） 推薦受付期間：平成24年3月末日

三水会事務局：TEL&FAX：<0120-873-135> E-mail：information@kitasato-sansuikai.jp

以 上

## ■ 第23回若手研究者研究奨励賞の募集

北里大学同窓会研究者研究奨励賞の募集を、下記の要項にて行います。

記

- 1、応募資格：北里大学卒業後15年未満の研究者個人（98年3月以降卒業）
- 2、奨励金額：30万円
- 3、応募締切日：平成23年12月20日
- 4、奨励賞授与日：平成24年5月の北里大学同窓会定期総会の席上で授与
- 5、応募方法：応募要項と応募用紙は同窓会事務局にありますので、ご請求ください。  
北里大学同窓会事務局（田村、鈴木）TEL：03-3446-7309

## ■ 北海道地区親睦会のご案内

下記ご案内のとおり来年2月、水圏生態学講座の朝日田卓教授をおむかえし北海道地区親睦会を開催します。雪の舞い散る札幌へ、道内はもとより各地会員皆様のご参加をお待ち申し上げます。

記

- 1、開催日時：平成24年2月25日（土）18時
- 2、開催場所：チサンホテル札幌 札幌市中央区北2条西2丁目9 TEL 011-222-6611 JR札幌駅南口徒歩6分
- 3、来賓講師：水圏生態学講座 朝日田卓教授
- 4、内 容：講演会18時～ 懇親会19時30分～
- 5、会 費：5千円
- 6、参加申込：三水会事務局まで、TEL、FAX（0120-873-135）、  
またはE-mail（information@kitasato-sansuikai.jp）で平成24年1月末日までお申し込みください。

以 上

～訃 報～

水産増殖学科8期生 中村 数哉 平成23年1月16日逝去

## 編集後記

三水会30周年記念イベントの前日、突如東日本大震災に襲われました。続いて、福島原発、長野の地震さらに夏には台風の被害が各地で出ております。会員の皆様の中にも被災された方が多数いらっしゃると思います。この場を借りてお見舞い申し上げます。

さて、緒方学部長からの寄稿にもありましたように、海洋生命科学部もこの東日本大震災の被害をうけて、相模原キャンパスへの移転を余儀なくされました。たいへん残念なことであります。しかし今後も三陸との絆については学部はもとより我々卒業生も強く持ち続けていきたいものです。

その一環として三水会で始めた義捐金には多くの会員の方々からたくさんのご支援をいただきました。改めて、三水会の底力を強く感じ、頼もしく思いました。今後も会員同士の親睦をさらに深め、難局に直面した時には力を出し合い、そして喜びや楽しみを共有できる会として未永く継続していけることを願っております。会員の皆様方のさらなるご協力をよろしくお願いいたします。